

X線像でみる 股関節手術症例アトラス [CD-ROM 付]

佛淵孝夫 ● 著

〔評者〕内藤正俊 (福岡大病院病院長)

このたび発行された『X線像でみる 股関節手術症例アトラス CD-ROM 付』をパノラマ風に捲り終えると 30 年前に初めてグランドキャニオンを眼前にした時の感動が蘇りました。著者が執刀した膨大な症例の幅広さと奥行きに深さに圧倒され、機能が回復した偉観とも言えるべき股関節の群れに“あっぱれ”と感嘆の声をあげました。

本書は約 6000 例の中から厳選された症例の両股関節正面像を用い、術前から術後までの長期経過が 1 頁で一目瞭然にわかる画期的な構成になっています。手術方法により A から C までの 3 部に分けられており、A は各種股関節骨切り術、B ではさまざまな症例に対する初回セメントレス人工股関節置換術 (THA)、C は主にセメントレス THA による再置換術です。各部をさらに術式ごとに細分類し、その代表症例ごとに手術適応、術前の準備、治療法選択の因子、手術のコツ、ピットフォール、後療法、合併症と対策などが箇条書きで簡潔に記載されています。各症例には細分類に応じたタイトル、性別、年齢、手術の難易度とともに手術方法の秘訣が“COMMENT”の数行に詰まっています。付録の CD-ROM には書籍に

提示されていない症例を含め合計 600 例が掲載されており、コード番号は本書の症例のタイトルと呼応するようになっています。細分類ごとの自動的なスライドショーの on, off や画像の拡大機能もあります。使い勝手がとても便利で、全体を眺めることや手術の細部のチェックが容易です。

本書の“Column”にもお書きになられていますが、著者の佛淵孝夫佐賀大学学長は 1979 年に股関節外科のメッカである九州大学整形外科に入局されました。他大学から 2 年前に同医局に入局していた筆者は、研修 1 年目の著者と半年間同じ病棟で勤務しました。最初から該博な知識と凛々たる態度が印象的で、よく患者を診ていらっしゃいました。故杉岡洋一先生が教授になられてからは文字通り右腕として診療や研究だけでなく、「骨切りワークショップ」などの実務もなさっていました。手術に対する天稟にも恵まれ、今やわが国の股関節外科のトップランナーです。

本書では治療戦略、必須な分類、手術方法のポイントなどはすべて図解され、股関節外科の成否の判定に不可欠な両股関節正面像のみで、MRI や CT などの特殊な画像はほとんど使われていません。無



駄が一切省かれ、文章は最小限にとどめられていますので、すっきりとしたわかりやすい内容になっています。整形外科領域へのクリティカルパスの導入で先鞭をつけた著者の哲学を垣間見る思いがします。日常の診療で遭遇するほとんどの股関節疾患が本書に含まれていますので、整形外科の先生方に広く本書を推奨いたします。ページを捲りながら清々しい気持ちで学び、股関節外科の妙を思う存分満喫してください。

B5 頁 232 2010 年
定価 9,975 円 (本体 9,500 円 + 税 5%)
医学書院 刊